

は「さまざまな埋もれている種を発掘してもらい、大きく育てる施策に取り組み努力をしてほしい。また、若者が地元就職や定住するための施策として、北秋田市には何が足りないのか、そして何が必要で、どのような改革をすべきかといった根本的な問題を職員同士でも熱く議論し、積極的に提言してほしい」と強調しました。

将来を見据えた
北秋田市の土台づくり

最後に「今回の市長選挙にあたり『人口減少時代への挑戦』というスローガンを掲げた。皆さんにも人口減少問題に果敢に挑んでほしい。秋には大館能代空港インターチェンジも開設される予定で、数年後には秋田自動車道と直接つながることになり、人や物の流れが大きく変化することは確実。この大きな転換期をどう生かしていくことができるのか、その後の展開に大きな差がでる。1年後、2年後はもちろん10年後、20年後、50年後の将来を見据えた、しっかりとした基盤の上に成り立っている北秋田市の基礎を作り上げることが求められている。この土台づくりのために、皆さんと一緒に汗を流していきたい。ともに頑張りましょう」と呼びかけました。

臨時議会で所信表明

4月25日には、平成29年北秋田市政会第1回臨時会が開かれ、津谷市長が所信を表明し「市長選挙は、無投票であったが故に身が震えるような責任の重さと、市民の期待に応えられるよう、職務を全うしなければという熱い思いが身体の内から、沸々と沸き上ってくるのを感じている」と自身の気持ちを表しました。

また、これまでの市政運営の成果と反省を踏まえ、今後4年間の重点事項として「産業振興による仕事づくりと働く場の確保」、「移住・定住対策」、「少子化対策・子育て支援」、「新たな地域社会の形成」、「高齢者にもやさしい医療と福祉の充実」、「市民ファーストの推進」、「安全・安心で快適な暮らしやすい環境の整備」の7つの政策を挙げ、積極的に取り組んでいくことを強調しました。

最後に「若い方からお年寄りまで、北秋田市の市民で良かったと感じてもらえる市政の実現に誠心誠意取り組みたい」と決意を述べました。



津谷市政

人にやさしい見守り
ぬくもりのまちづくり

「3期目」始動

当選後初めて登庁
職員の出迎えに笑顔

市制施行後、4回目となる北秋田市長選挙が4月2日に告示され、無投票により津谷永光氏が3選を果たしました。

翌3日には、津谷市長が当選後初めて登庁。市役所玄関前で多くの市職員が拍手で出迎えるなか、一人一人と握手を交わしたあと、職員から花束を受け取り、鳴りやまない拍手に笑顔で応えながら「これからまた、よろしくお願いします」とあいさつして庁舎に入りました。

職員に対して
年度始めの訓示

登庁後には、幹部職員と新規採用職員約100人を前に、年度始めの訓示が行われました。

津谷市長は冒頭、改選にあたり北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の着実な遂行による『人にやさしい見守り・ぬくもりのまちづくり』をメインに7つの項目を訴えてきたことにふれ「公約実現に向けて皆さんと励んでいきたい」と決意を述べ「公約の中で、市民ファーストという言葉を使ったが、今職員に心がけてほしいことは『やさしさ』です」と自身の気持ちを説明しました。

市民ファーストと
寄り添ったやさしさを

北秋田市は、高齢化率が40パーセントを超えており、今後も上昇していくことに疑いの余地がないとし「行政サービスの対象者は、今以上に高齢の方々が中心となっていく。高齢であるが故の不便さや大変さを少しでも解消していただくために、常に市民ファーストの気持ち、常に市民に寄り添った『やさしさ』をもって業務に励んでほしい」と喚起しました。

さらに、北秋田市が元気で活力あるまちであるためには、若者の定住・子育て世帯への支援、働く場の確保が重要課題とし「北秋田市の人口は12年間で7000人も減少した。人口減少をくい止め、増加に転じさせることは、残念ながら現時点ではたいへん困難と言わざるを得ない。しかし、北秋田市が将来において地方自治体として存続していくためには、地域を担う若い人たちの存在と力が『必要』と述べました。

そのうえで「農林業を基幹として、ブランド化や高収益化、販路開拓や特産品と観光産業の融合などは、まだまだ伸びしろがあり、他業種においても同様に発展の余地を残していると確信している」として、職員に

ざっくばらん
津谷市長に聞く

◎最優先に取り組む施策は
高齢者が移動の手段がなく不自由している。そうした地域をあぶり出し優先順位をつけて、公共交通体系の整備を進めていきたい。1年では難しいかもしれないが、スピードを上げて取り組みたい。

◎公約「市民ファースト」狙いは
市の職員は、庁舎を訪れる市民の立場になって対応してもらいたい。高齢化が進んでいるので、本庁舎の駐車場は、車の入れやすいスペースの作り方を検討するとか。窓口のカウンターでは、職員が座って対応しているのに、来庁者は立ったまま手続きをしている。カウンターを低くすれば、座ってもらって対応できる。自分や自分の家族がその立場になったときに、不便な



ことはないのか、常に市民目線で考えてほしい。

◎あらためて3期目の決意は
人口減少が進むことによって、地域の活力が失われているし、雇用の場はあるが、そこで働く人や消費者も少なくなってきている。それが市の産業や財政にも影響してくることで、ある程度の人口規模を想定して進めている事業は、将来的には見直しが必要になるかもしれない。思い切った施策を展開するためにも、市の職員だけではなく、市民も巻き込んで熱い議論を交わしてほしい。

身の丈にあった行政運営は大切だが、収縮し過ぎると、若い人たちの夢や希望がなくなってしまう。企業や子育て世代を支援し、雇用の確保や子育て環境などの整備に取り組む。公約には時間のかかるものもあるが、すぐできるものはすぐに実行したい。